

# 進修同窓会報

発行 土浦一高進修同窓会  
編集 同窓会会報編集委員会  
〒300-0051 茨城県土浦市真鍋4-4-2  
TEL(029)822-0137(代) FAX(029)826-3521  
ホームページ <http://www.sin-syu.jp/>



改修工事を終えた旧本館 平成30年6月1日撮影

## 土浦一高校歌

堀越 晋 作詞  
尾崎楠馬 作曲

- 一、沃野一望数百里 関八州の重鎮として  
そそり立ちたり筑波山 空の碧をさながらに  
湛えて寄する漣波は 終古渝らぬ霞浦の水
- 二、春の彌生は桜川 其の源の香を載せて  
流に浮ぶ花筏 蘆の枯葉に秋立てば  
渡る雁声冴えて 湖心に澄むや月の影
- 三、此の山水の美を享けて 我に寛雅の度量あり  
此の秀麗の気を享けて 我に至誠の精神あり  
東国男児の血を享けて 我に武勇の気魄あり
- 四、筑波の山のいや高く 霞ヶ浦のいや広く  
嗚呼 桜水の旗立てて 我が校風を輝かせ  
亀城一千の健男児 亀城一千の健男児

### 目次

- 2頁 会長あいさつ
- 2頁 学校長あいさつ
- 3頁 平成30年度総会報告
- 3頁 新任職員紹介
- 4頁 卒業60周年記念同窓会
- 4頁 卒業50周年記念同窓会
- 5頁 卒業40周年記念同窓会
- 5頁 卒業15周年記念同窓会
- 6頁 恩師からの便り
- 7頁 卒業生レポート<sup>②③</sup>
- 8頁 支部・OB会だより
- 9頁 120周年記念事業報告
- 17頁 母校だより・職員室だより
- 18頁 部活動報告等
- 19頁 進路状況報告等
- 20頁 平成29年度決算報告等



### 同窓会会長あいさつ

幡谷浩史

(高4回・併2回)

同窓会会員の皆様におかれましては、恙なく健やかに過ごしのことと拝察申し上げます。

常日頃より当会会務運営につきましては、深いご理解の下、温かいご支援・ご協力を賜り誠に有難うございます。

お蔭様をもちまして、120周年記念事業関係は、目標金額も満額を超え、関係者一同安堵するとともに、快く応援頂いた同窓会会員をはじめ企業関係団体各位に、深謝申し上げる次第です。

今回は120周年に併せ、各種事業を策定し県当局と幾度となく折衝してまいりました。そして、調査予算をお願いするところまで進捗し、今度こそはという時に、3・11(東日本大震災)が発生し、県下県立高校校舎の耐震補強工事が最優先となり、その予算化については、延び延びになってしまいましたが、しかし、旧本館(国指定重要文化財)も3・11後の余震が追い討ちをかけ、基礎部分の被害損傷大と認定され、平成25年度には、調査予算が認められませんでした。その後、総額算定、見積金額と併せ、施工業者の決定等々、修復工事内容の検討を重ねる一方で、文化財建造物保存技術協会などからのご指導を頂き、平成27年度秋より着工開始となりました。

創建当時の塗色(外壁)も、現在の外壁塗膜を一部剥ぎ取り、顕微鏡で分析し、現在市販中の塗料と合わせ、いかに忠実に再現できるかを模索し決定

する等、その折の実行委員会及び学校当局の協力は筆舌に尽くしがたく、校訓にある「自主・協同・責任」を地で行く「一致協力」は、正に土浦一高OB・OGの底力を垣間見た思いです。

ところで、日本では、オールジャパンとして2020東京オリンピック・パラリンピック等を含め、「インバウンド」施策が推進され、近い将来に訪日外国人は4000万人と予想されています。これらの人達との交流を促すものの、日本の高校生を含め若者たちには、敢えて前向きな冒険・留学を好まず、内に籠る傾向がみられます。そこで文部科学省、県当局は留学を促す施策を打ち出し、特に「SGH(スーパーグローバルハイスクール)」に、平成26年には全国50校余りを指定しました。これに土浦一高は県内でただ1校、いち早く指定を受けると、先生達の指導の下で、現在まで立派な実績を挙げている。今後は、5年間の指定期間を終えても、形を変えてなお継続される事を期待すると同時に、進修同窓会としても、後輩のために全面協力する心算です。

結びに、創立120周年記念事業に携わっていただいた皆様に再度お礼を申し上げますとともに、旧本館設計者である駒杵勤治の功績を称え顕彰することを考慮に入れながらご挨拶いたします。



### 学校長あいさつ

校長 杉田幸雄

(高29回)

進修同窓会の皆様には、日頃より物心両面にわたってご協力を賜り、深く感謝申し上げます。昨年の創立120周年記念式典に引き続き、今年、旧本館の改修工事が終了し、ゴシック調の荘厳な建物が甦ったことは、この上ない喜びでございます。

本校は、明治30年に開校し、今年で創立121年を迎えますが、本校旧本館(旧茨城県立土浦中学校本館)は、明治37年12月7日に竣工し、翌明治38年3月5日に周辺の教室を含め完成したものです。この旧本館は、ここで学んだ方々の思い出とともに、本校の歴史と伝統を象徴する建物として親しまれており、教職員が用いる名刺はもとより、学年後援会等の配付資料にも、必ず旧本館のイラストが載せてあります。私も、高校時代に、この旧本館で学びましたが、英語の辞書を床に落とす時、油で辞書が黒くなった記憶があります。また、外の景色が歪んで見える窓ガラス。暖房をとつてもなかなか暖かくなならない教室。そして、半分青い高校生活を悠々として受け止めてくれた学び舎。この校舎で過ごした高校時代が、貴重な思い出として今もなお旧本館の雄姿とともに、心の中に生き続いているのは、私だけではないと思います。明治、大正、昭和、平成、そして次の時代へと時は流れても、この旧本館が本校卒業生の心のシンボルとして、土浦一高の繁栄とともに残り続けてほしいと、心より願っております。

さて、本校では、毎年、東京大学や国公立医学部医学科をはじめとする多くの難関大学への進学を果たしていま

す。これまでの実績に基づき、平成31年度入学生から「医学コース」が設置され、第2学年進級時に選択できることになりました。医師不足対策の一環として、県の重要施策を本校が担うこととなります。その他にも土浦一高独自の教育活動はたくさんありますが、本校で身に付けた高い知性と自立探究型の学びの精神は、大学進学にとどまらず、その先、自分が社会にどのような形でかかわっていくのかを見据えた、生涯にわたって役立つ重要なスキルとなるものと考えています。

また、本校定時制においては、今年春は横浜への遠足を実施し、毎年恒例のクラスマッチとあわせ、生徒たち相互の絆を深めることができました。定通大会でもソフトテニス部、陸上部が全国大会へ出場するなど、生徒たちは部活動でも活躍しています。

これは本校の学校教育活動の礎となるのは、これまで多くの同窓生の皆様が発展のための創造と挑戦の営みであると感じております。本校の歴史と伝統を受け継ぎ、改修を終え再び甦った旧本館の雄姿に恥じぬよう、今後とも、全国公立高等学校の雄として、教育の本道を目指してまいりますので、皆様方には、今後ともなお一層のご指導ご支援をいただきますようお願い申し上げます。

最後にありますが、学校の様子をより身近に感じていただくために、本年度もYouTubeを利用した動画を学校HP上に掲載してあります。是非そちらの方もご覧いただけると幸いです。

平成30年度

進修同窓会総会開かれる

今年4月15日(日)に平成30年度進修同窓会定期総会が、母校体育館において、周年祝賀卒業生等を含む350名の、県内外から駆けつけてくださった同窓生の皆様のご出席を得て盛大に開催されました。

総会は、応援指導部の血沸かせる澗刺たるリードと吹奏楽部の胸迫る熱き演奏に合わせて、校歌・応援歌・一高讃歌を全員で斉唱することから始まりました。物故会員に対する黙禱に続く幡谷浩史会長と杉田幸雄校長の挨拶の後、平成29年度事業報告及び決算報告、役員改選案、平成30年度事業計画案及び予算案が審議され、原案通り承認可決されました。更に、次年度以降の総会開催日、創立120周年記念事業関係報告等についても原案通り承認可決されました。こうした中で、特に幡谷会長からは、創立120周年記念事業の完遂に係る募金が、目標額80,000,000円に対し、最終的には81,862,366円(延べ2,593名)に達したこと

Explorers Group、参加者：生徒38名・引率教員3名、期間：平成30年3月18日～28日、訪問地：ワシントンDC・ボストン・ニューヨーク)に参加した生徒の代表からの成果報告、そして最後に、外壁の色が創建当時のベージュに復元される等の、改修工事を終えた旧本館校舎の現況報告があり、総会は終了しました。

続いて、卒業60周年(全日制10回・定時制8回)、卒業50周年(全日制20回・定時制18回)、卒業40周年(全日制30回・定時制28回)、卒業25周年(全日制45回・定時制43回)、卒業15周年(全日制55回・定時制53回)の



挨拶する幡谷浩史会長

生徒による海外研修報告(上)、柴沼和廣氏(左)、渡辺孝男氏(右)

節目を迎えた皆様に対する卒業周年祝賀式が挙行されました。柴沼和廣氏(高21回)からの祝辞、幡谷会長からの臨席者への記念品贈呈があり、最後に渡辺孝男氏(高20回)から謝辞が述べられました。祝賀式終了後、それぞれ懇親会は、各幹事のお骨折りで、「卒業60周年」「卒業50周年」「卒業

新任職員紹介



着任の挨拶 全日制教頭 片岡達郎(高33回) 4月初めにこの学校に来て、休業中にもかかわらず、学習活動、部活動、一高祭に向けた活動など多くの生徒達の姿があり、学校全体が活気に満ちあふれていたことに驚かされました。その後も、生徒達の何事にも前向きな姿に感動する毎日です。私は、この学校で仕事をすることができ、ほんとうに、本当に幸せだとしみじみ感じています。

私も同窓生(高33回)の一員として、進修同窓会の皆様の熱心な思いを感じながら、伝統ある本校のために、微力ながら尽力して参りたいと思います。今後とも、よろしくお願いたします。



定時制教頭 鮎川好夫(高34回) 同窓会員の皆様には、日頃より本校の教育活動に深いご理解と多大なるご協力を賜り、大変お世話になっております。今年度4月より定時制教頭として赴任してまいりました鮎川好夫です。本校全日制の第34回です。当時、私が入学して間もなく現在の新校舎建築が始まり、夏の授業や課外では、建築中の轟音を避けるため、真夏でも窓を閉め切って授業を受けていたことを思い出します。その頃勿論エアコンはなく、扇風機の風だけが頼りで、密室の中にも工事の音は容赦なく入り込み、先生方の説明を、板書を頼りにほとんど勘で聞か、諦めるか(?)のどちらかでした。2年生になりピカピカの新校舎に移ることができ、ほっとしたのを覚えています。今では古くなったしまったその学び舎に自分が職員の一員として戻って来るとは、夢にも思っていりませんでした。当時こっそりと覗き見することぐらいしかなかった1階の定時制職員室に今は自分の机があることが不思議でなりません。はなはだ微力ではございますが、自分の今を形作ってくれた我が母校の発展に少しでもお役に立てればと思っております。これからもどうぞ変わらぬご協力をお願いいたします。

15周年」がホテルマロウド筑波に移動して催されました(卒業40周年)はホテルマロウド筑波で、「卒業25周年」はJALUBE(ロープ) Kasunigaauraでいずれも前日に開催されました。そこでは、恩師や旧友との再会を喜び合う談笑の輪が広がるとともに、懐かしい思い出話や近況報告などに花が咲き、大いに盛り上がりました。(本部幹事 鴻巣 茂(高21回))

卒業60周年記念同窓会

高10回 鈴木 博一

改修工事を終え、外壁が創建時のベージュ色に蘇った旧本館前で記念写真撮影をした後、70名が同窓会総会・周年記念祝賀式に臨みました。その後、ホテルマロウド筑波に移動、60余名が学年同窓会に参加、幡谷浩史同窓会長および杉田幸雄学校長の挨拶をいただき、盛大に旧交を温めました。

多くは昭和14年生まれ。昭和20年の敗戦、国民学校初等科に入学、小学校へと名称が変わり、平和とは名ばかり極度の物資難・食糧難を耐え忍び育ってきました。

一高入学は昭和30年。1年次は木造平屋の教室、2・3年次は現在文化財として改修された旧本館でした。学年が上がる度にクラス替え、主要教科はテストで追い回されていたように記憶しております。99%男子生徒の中6名の女子は、不自由な環境の中でも気丈に勉学に励みました。パンボンが体育の中心だったようです。特徴ある先生には、「赤鬼」「ガンテツ」「カメさん」「欽ちゃん」「ゲータ」「セントス」「シンチャン」「タコさん」「チンコロ」「ナポレオン」「ネコ」「ピーサン」「ラムダ」等あだ名が受け継がれていました。その先生方も、今やほとんどが他界され空から見守っていただいております。それぞれが希望を抱き勉学に励み、卒業後には世の中のお役に立つことができたのではないかと思います。これも偏に、先生方の厳しくも温かいご指導の賜と、感謝の思いをここにお伝え

する次第です。

昨年11月土浦一高は、明治30年創立以来、120周年記念という大きな歴史を積み上げたところで、生徒として第3学年在学中、創立60周年記念式典に参列させていただき、今回は卒業60周年記念にご招待いただきました。これらの節目に遭遇できたことに、心から感謝の意を表する次第です。私たちは、第29回全国高校野球選手権大会いわゆる甲子園大会に、初出場2回戦進出を成し遂げた同胞を擁する学年として、同窓会史上にも記録を残した学年でもあり、特別の思いを抱いております。

やがて傘寿を迎えますが、母校で最良の恩師と最良の友と巡り会えたことは、土浦一高に入学・卒業あつてのことです。



終わりに、亡き恩師と亡き仲間

たちのご冥福を祈り、母校土浦一高及び進修同窓会のみますの発展と、同窓の皆様のご健勝とご活躍を心からご祈念申し上げます。

卒業50周年記念同窓会

高20回 渡邊 慎一

去る4月15日、朝からの雨も上がり、我ら昭和40年度入学生は、卒業50周年の節目の年を迎え、進修同窓会総会及び卒業50周年記念同窓会に参加致しました。昭和43年の卒業式は、今は建て替えられておりますが、創立70周年記念として建設された新装の体育館で行われたことが、昨日の事のように思い出されます。そして総会における現役応援指導部の演技、吹奏楽部・弦楽部の演奏は、まさに50年前の世界を彷彿させる時間でもありました。

また、同窓会長、学校長のご挨拶からは、母校の今まさに躍進する姿が窺え、一高を卒業した喜びと誇りを再認識する気分ともなりました。そして、高20回卒を代表して、前参議院議員の渡辺孝男君が医者立場から、人生100年時代を迎えて「Productive agingの重要性を唱え、創立150周年の佳節に再び一高に集い会いたいと高らかに謝辞を述べました。

式典の後、市内のマロウド筑波に場所を移し、盛大な卒業50周年記念同窓会が開かれましたが、ここには国内外から127名の亀城健児が集結しました。この盛大な会を準備された幹事会の面々、特

に國谷紀夫君にはこの書面を借りて御礼を申し上げたいと思いま

す。会場ではクラス別に用意されたテーブルへの着席からはスタートしましたが、所属したクラブや出身中学の仲間との再会を喜ぶ姿も多く、特にロスアンゼルス、ベルギーから駆けつけた2人の亀城乙女の挨拶には会場も華やき、多いに盛り上がりを見せるものとなりました。

さて、我々の一高3年間を振り返ってみますと、入学前年の東京オリンピックも含め日本は高度成長経済の真つただ中にあり、土浦市でも入学当初の6月に鹿島参宮鉄道と常総筑波鉄道が合併し関東鉄道として設立、卒業直前には土浦駅前丸井が新規開店といった、高度成長経済の一端がまざまざと感じられた時代でありました。一方、政治的には文化大革命、東大紛争、三里塚騒動の始まりやベ平連の設立など国内外に亘り激動の時代を迎えておりました。また、一年時には水戸一高との定期戦(土水戦)が始まり、土中時代から続く水戸に追いつく！追いつく！この気概に触れる事で土高生としての自覚に目覚めた時でもありました。

また、同窓会当日は折しも国の重要文化財である懐かしの旧本館が2年余りの修復工事が終わろうとする時で、修復なったその外観は創建時の明治37年の姿を蘇らせ、そのゴシック様式の格調高さは神神しささえ感じたほどで、改めてこの学舎で学んだ事を誇りに思えた瞬間でありました。

それにしても、亀城健児として僅か3年間の生活でありましたが、この記念の同窓会に臨み、卒業から半世紀を経て新たな喜びと感動、そして、何よりも元氣や勇氣を享受出来た事に、進修同窓会の大きな力を感じ、改めて深く感謝を申し上げたいと思います。

卒業40周年記念同窓会

高30回 中島 博司

我々高30回・理数科7回卒業生は、本年、卒業40周年を迎えることができました。昭和50(1975)年4月に入学し、昭和53(1978)年3月に卒業した学年です。

当時のニュースを「日録20世紀」(講談社)で振り返ってみますと、高校1年の7月10日に中国国営の新華社通信は「秦・始皇帝の兵馬俑坑発見！」のニュースを打電しました。また、10月15日には広島カープが初優勝をとげました。高校2年の時にはロッキード事件の嵐が吹き荒れ、7月27日には田中角栄前首相が逮捕されました。高校3年の7月17日のキャンディーズの解散宣言は「青天の霹靂」でした。9月3日には、王貞治氏が世界新となる756号ホームランを放ちました。この偉業が称えられ、2日後の9月5日に福田赳夫首相から初の国民栄誉賞が授与されました。

さて、我々の学年は、1998年に卒業20周年記念同窓会を開催し、それから5年ごとに同窓会を開催しています。よって、今回の同窓会は、5回目となります。毎

回、100名以上の同窓生が集まり、楽しい時間を共有しています。その同窓会の企画・運営は、地元にいる各組の幹事が担当しており、私が事務局長をつとめています。

今回の卒業40周年記念同窓会は、平成30年4月14日(土)にホテルマロウド筑波で開催しました。さらに、翌15日(日)には、母校の体育館での祝賀式に招待していただきました。そこでいただいた記念品(母校のポストカード10枚と写真立て)は、宝物にしたいと思います。

ここで、我々が高校3年生の時の学年の先生方を紹介させていただきます。学年主任平田増三先生、副主任栗山作次郎先生、A組担任佐藤忠臣先生、B組担任片岡博先生、C組担任大崎高嗣先生、D組担任長壁英進先生、E組担任中村昌平先生、F組担任植木元生先生、G組担任高橋智先生、H組担任鈴木利夫先生でした。先生方の素晴らしい授業が今でもまぶたに浮かびます。本当にお世話になりました。

我々は卒業40周年を迎え、「還暦」も間近の年齢になりました。これまで、土浦第一高等学校の出身ということで、進修同窓会の皆さまのお世話になったことが大変多くありました。我々は、これからは「土浦一高卒業生としてのプライド」を胸に、歩んでいきたいと考えております。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。最後に申し上げますが、母校土浦第

一高等学校の益々の発展と、進修同窓会の益々の隆盛、そして、会員の皆様のご健勝を心からご祈念申し上げます。

卒業15周年記念同窓会

高55回 坪松 章人

平成30年4月15日(日)に進修同窓会総会及び祝賀式に参加させていただきました。数年ぶりに校門をくぐると、当時のままの校舎やグラウンドが目に入り、懐かしい気持ちでいっぱいになりました。また、伝統的な建物である旧本館は、自分が大人になったせいか、当時よりもさらに輝きを増していたように感じました。時間の流れと共に、自分も学校も形や心を変えていくのだなと感慨深くなりました。

式典では、現役生徒の吹奏学部・弦楽部の皆様の演奏と応援団の皆様の指揮のもと、卒業式以来の校歌を歌いました。さすがにすべてを記憶しているのは難しかったものの、一番の歌詞を自信もって歌えたことで「ああ、やはり自分は一高生なのだ。」と素直に嬉しく思いました。また、海外研修の報告会では、代表生徒の発表を聞き、母校がこんなにもグローバルな視点をもつて発展しているのだと感動しました。このような素敵な式典にお招きいただきましたことに改めて厚く御礼申し上げます。

その後、場所をホテルマロウド筑波に移し、学年同窓会を開催致しました。102名の同級生と共に、当時学年主任の笹目俊夫先生はじめ恩師である8名の先生方に

もご臨席を賜り、大盛況となりました。会場では、懐かしい友の声に耳を傾けると、様々な分野でそれぞれに活躍していることを知り、嬉しくもあり大いに刺激を受けたところがあります。昔話に花が咲くと、会場は笑い声に包まれ、みんな高校生に戻ったような気持ちになりました。また、ご臨席いただいた先生方からもご挨拶をいただき、当時の先生方の思いやその後の先生方のご活躍を知ることができ、大人になった今改めて先生活との距離がぐっと縮まったような気が致しました。そして、楽しい時間はあっという間に過ぎてしまい、最後には全体やクラスごとに何度も写真をとるなど、私を含め皆が名残惜しい様子で会場を後にしました。



思います。このつながりを自身の財産とし、さらなる発展を目指すことが、母校土浦一高への恩返しだと思っています。最後になりましたが、土浦一高の益々の発展と我が師、我が友のご健勝をご祈念申し上げます。本会に携わってくださった皆様、誠にありがとうございました。

卒業15周年記念同窓会

定53回 櫻井 忠男

本年4月、私たち定時制53回生は、卒業15周年を迎え、進修同窓会総会・卒業周年記念祝賀式にお招きをいただきました。

当日は全体会の式典に先立ち、定時制部会総会にも出席し、ここで卒業60周年(6名)、50周年(8名)、25周年(3名)を迎えた先輩方と共に祝賀を受け、記念撮影もしていただきました。ここに改めて厚く御礼を申し上げます。

定時制53回生の参加者は、2名、内田健人君と私だけでしたが、久しぶりに旧交を温めることができました。当時をふりかえってみると、私たちの在学中の3年間は、勉学はもとより、陸上競技全国大会出場など、課外活動でも全力投球して、我が校風を輝かせ「るべく、努力したことです。特に印象深いのは、定時制でも「文化祭」をやるうと、これを立ち上げ、「星光祭」と名付けて開催したこと、そして、第2回まで実施して卒業出来たことです。これが今日も継続して、ますます盛んなことは、



うれしい限りです。担任の田中勝彦先生をはじめ、当時の先生方はすでに転出なされておりますが、このたび、めでたく15周年を迎えたことを喜び、この場をお借りして御礼申し上げます。

次の25周年記念の祝賀式には、多くの仲間が参加されることを期待し、いまから楽しみにしております。最後にりましたが、母校並びに進修同窓会のみならずのご発展と、会員皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

住所変更手続きのお願い  
住所や電話番号等を変更された方は、左記のEメールへ送信下さい。又同窓会会員名簿の不明者欄に掲載されている知人や友人がおりましたら、当人に事務局へ連絡するようお願いいたします。ご協力よろしくお願い申し上げます。  
進修同窓会事務局  
Eメール shinsu@tsuchinai-hk.ed.jp  
FAX 029-826-3521

恩師からの便り

国語科 吉澤中正先生

昭和47年4月〜平成6年3月在職



鉄研OBとの出会い

私は17年ほど前から石岡二高の同窓会長を仰せつかっており、同校の主要な行事には毎年大抵出席してまいりました。今年の入学式が始まる前、「先生お久しぶり」と話しかける教員がいて、何と土浦一高28回(昭51)の卒業生、横手利雄君(先生)なのでした。

石岡一高に3月まで勤務していた今年再任用で石岡二高に勤務することになった、というのです。してみると横手君(以下「君」)でいきます、ごめん)も定年で60歳になったのか、私も80歳代の半分(青くない)になってたのだなあと、改めて老いを感じた次第です。

横手君は、昭和48年、高校の教育課程の改訂によって第7時限に必修クラブの活動が始まった年に、私が言い出して作ったような「鉄道愛好クラブ」の中心メンバーで、「愛好」の名より「研究」の方がよかつたかと思われるほど(平成元年に部(鉄研)に昇格)

熱心なクラブ員でした。

必修クラブの活動は授業時間の中で展開されることになっていったのに、何しろ「鉄チャン」の集まりですから、クラブの時間に出てくる生徒たちは、校外活動をしたがって私を困らせていました。仕方がないので、教師が引率して行うグループ活動(次第にエスカレートして夜行日帰り(車中泊)の活動になる)として上司に認めてもらい、(多分決々「昭和」)はいい時代でした)私が引率することによって彼らの希望を叶えさせました。

今は山形新幹線が、山間の小駅など無視するように走りぬける(奥羽本線)赤岩駅がまだスイッチバック駅だったところ、必修クラブ校外活動として、結構な人数で立ち寄り、数時間、駅の施設や停車する列車の写真撮影などをしていて職員たちと親しくなり、鉄道愛好クラブの集合写真が、その年以後数年(10数年?)にわたって駅の待合室に飾られたりしていました。

今は老境に入った私ゆえ、なかなか鉄研OBの旅行や集会の誘いに応じ切れず、ただ思い出にひたつておるばかりです。

躍進期の進路指導部で

土浦一高に22年も勤務していませんが、私自身の事情(お察しを)から、学級担当は1回のみ、29回

生の3年間だけでした。「一回だけ担任の3年A組クラス会」という妙な名前の集いが、島岡宏明君らの主導で開かれ、時折招かれております。

何しろ担任なしでしたから、校務としては、土浦一高の22年の後半は、進路指導部の仕事に没頭して殆ど職員室には居らず、進路指導部室に常駐していました。部長戸祭秀雄先生の下、大学合格者氏名を筆で墨書して廊下に張り出していたこともあり、(その頃は個人情報などがどうのこうのと言われたりしませんでした。授業時間の合間・放課後などに担任から情報を得て、合格者氏名を筆で書き記すのは結構大変でした)「進路情報」の作成などもあって仕事量が増え、合格者氏名の張り出しをワープロによることにしたところ、どうして先生の思いのこもった筆書きでなくなったのかと不平を言う生徒がいて、また筆で書くことにしました。

国立大学の合格者の急増、就中東大合格者数が公立校としては全国でも上位の結果となった昭和60年代から、全国の高校の進路指導担当者次々と視察に訪れるようになり、対応は進路指導部ですることになっていましたから、訪れた先生方に何か特別な指導をしているのか、受験産業と提携したり、有名予備校の講師を招いたりすることがあるのではないかと尋ねられ、そういうことは一切なく、学年主任を中心として学級担任が常に前年度以上の結果が出るように努力しているだけと説明してもなかなか信じてもらえませんでした。

古語辞典編纂と教材研究

神職の家に生まれた私は、國學

院大学で学ぶことにしました。昭和27年、入学してすぐ、そのころ土浦一高に勤めていらした常陸國總社宮の先代宮司故石崎紀夫先生の斡旋もあって、金田一京助教授・田辺正男教授両先生の研究室に入ることができました。

金田一先生が引き受けて来られる辞書の編纂作業は大変で、特に国語辞典は時の流れと共に変化する言葉、移り行く意味の見極めが必要で、上級生や大学院生が携わっていました。私は専ら古語辞典の用例さがしを命ぜられ、なるべく高校の教科書に載っているような古典作品を読みあさりしました。金田一・田辺両先生の後任となられた和田利政先生の下で、角川書店・三省堂・旺文社などの古語辞典・国語辞典の編纂の手助けをして、土浦一高に赴任してからも教材研究の傍ら、辞書編纂の仕事もしていました。

軟式野球部長として

昭和30年代には、いま土浦一高の同窓会の仕事をしておられる飯村弘先生、野球部の監督をしておられた菊池節先生と下館一高で一緒にしました。

飯村先生とは、普通科が2クラスしかなかったころ(後に4クラスに)の担任同士として、また菊池先生とは、私が下館一高に赴任した昭和34年、先生が率いる野球部が県大会で優勝、(2回戦、3回戦と予期しなかった勝利で、当時蒸気機関車が走っていた水戸線の客車に乗り、応援の生徒らと共に水戸まで行くのが容易でありませんでした)あれよあれよという間に北関東大会でもトップに立ち(当時は全国大会への出場は、茨城・栃木・群馬県の代表が北関東大会で優勝する必要があります)

た 甲子園出場を果たした時の野球部顧問としてお世話になっており、土浦一高での久しぶりの再会を喜び合いました。

実技は全く駄目なのに、土浦一高赴任の折、大曾根宏亮先生の誘いに乗って(?)軟式野球部の顧問(後に部長)になり、以後退職するまで軟式野球部に関わっていました。

その間、運動能力は他校生より劣っていても決して弱くはなかった土浦一高軟式野球部が、監督の小田潤・戸部守・白田稔先生らの巧みな指導により、県大会で優勝したり準優勝したりする試合ぶり(特に戸部先生が監督となって関東大会に出場、栃木県代表の作新学院に勝った見事なゲーム)をベンチまたはネット裏で見続けておりました。茨城県の高校軟式野球部は、高体連・高野連の双方に加盟しており、私も茨城県高体連の軟式野球部専門委員長としての委嘱を受け、平成2年、永年勤続の故をもって表彰されたりしました。

硬式野球部と違って専門の審判員を依頼できない軟式野球部の大会では、各校の顧問が交代で審判に当たっており、私も野球場で元氣な高校生たちの試合の審判などをして、好きな野球を仕事とする喜びを感じたりしていました。

現在は

万葉集に「筑波嶺の背向に見ゆる安之保山悪しかる咎もさね見えなくに」と詠まれている足尾山上にある足尾神社の宮司として、また兼務27神社の宮司として、老骨に鞭打って神明に奉仕しております。

# 卒業生レポート

⑬

## 「エンジニアから文化財ドクターへの転身」

公益財団法人 元興寺文化財研究所

総合文化財センター長

塚本 敏夫 (高32回)



はじめに

私は奈良市にある(公財)元興寺文化財研究所の総合文化財センターに勤務しています。皆さんは元興寺というお寺をご存じでしょうか? 知らない方が多いと思います。しかし、飛鳥寺はご存じの方も多いと思います。実は元興寺は日本最初の本格寺院の飛鳥寺が、平城京ができる際に飛鳥より遷り、名を元興寺と改めたお寺です。今年で創建1300年を迎えました。では元興寺文化財研究所はどんな仕事をしているのでしょうか? 明治の廃仏毀釈で荒果てた元興寺を再興しようと、解体修理と防災工事に伴う発掘調査を行った際に10数万点にも及ぶ中世庶民信仰資料が発見されました。その資料の調査解明と保存修理を目的に昭和48年に研究所が設置されました。全国から発掘された出土品の保存修理を中心に、文化財全般の総合的な調査・保存修理を手掛ける日本唯一の民間の研究所として50年以上の実績を持っています。例えるなら文化財の総合病院といえ

る研究機関です。ここで私は全国の文化財の診断をして、必要なら治療をして文化財を後世へ残り、伝える裏方の仕事(例えるなら文化財ドクター)をしています。レポートでは私が今の仕事に就くまでの経緯と、どのような仕事に携わってきたかについてお話ししたいと思います。

### 考古ボーイ覚醒

私は少年時代に母の実家の石岡市高浜で、お祖父さんに家の畑の中にある舟塚山古墳(関東で二番目に大きな前方後円墳)に連れて行ってもらう、それが古の王様の墓であることを聞き、古墳への深い興味を持ちました。その後は少年発掘団を組織したり、図書館で考古学の難しい本をむさぼり読む考古ボーイとなり、小中学生の頃の夢は考古学者になることでした。

### 夢の軌道修正と土浦一高時代の思い出

中3の冬、父の会社が倒産し、土浦一高に進学しましたが、経済的にも考古学者の夢は断念しました。高校生活は家庭的には苦しかったです。友達との交友が寂しかった。剣道部での厳しい練習や土水戦、楽しい一高祭、友達との霞ヶ浦一周(今で言うカスイチ)、郷土史研究クラブの部員3人で、常陸小田氏の研究を掲げ、自転車でお田城や関城、大宝城他を道査した楽しい思い出が文化財の道に進んだ根底にあります。考古学への決別とエンジニアへの道 大学は茨城大学の工学部へ。考

古学への思いは強く、授業を履修し、論文を読み漁り、発掘調査にも参加しました。しかし、3年からは土質工学を専攻し、卒業研究は電力中央研究所でお世話になり、ここで研究者としてのいろはを学びました。また、東京湾横断道路のプロジェクトへの参加という第2の夢も見つかりました。

### エンジニアとしての新たな夢への邁進

就職先は小松製作所を選びました。30歳までは社員教育のしっかりした企業か、優秀なリーダーの居る会社で勉強して自分のスキルを確立すること、後は自分の進みたい道を選びなさい。指導教官の助言が決め手となり、私は前者を選択しました。地下建機事業部に配属され、TBM(岩盤を掘る機械)の設計から岩破砕のディスタカッターの開発、国内最大径の舞子トンネル用TBMの設計を手掛け、夢である東京湾横断道路のプロジェクトチームに入り、セグメント自動組立ロボットの試作設計に携わりました。

### 人生の転機と夢へのチャレンジ

ロボットの試作の最中、虫垂炎で入院、院内感染から合併症を併発し死の淵を彷徨いました。長い闘病中、憧れていた考古学の先生の本が刊行され購読、その面白さに俺は考古学が好きなんだ、死んだら後悔する。胸の奥にしまっていた想いが溢れ出てきました。職場復帰後、当時の造船不況で東京湾横断道路計画に行政指導が入り、小松ではメイン設計者になれない現実面に直面しました。また競売で人手に渡った実家を買戻し、ひとつの区切りがつかないまま。そんな時、理系でも文化財の仕事に携われる元興寺文化財研究所の存在を知りました。しかも、中途採用を募集前、そこで1度しかかな人生30歳前に転職することを決断しました。夢への再チャレンジでした。文化財ドクターとしての船出、デ

### ジラルアーカイブ研究への着想

新天地では保存科学センターの金属器保存研究室に配属になり、機械設計で学んだ金属の知識を生かすことに。ここでは最先端の分析機器を使つての履歴情報の解明や、化学薬品を使用した保存処理といった理系の技術が役に立ちました。

### 入所日に木製修羅(古代の運搬用ソリ)を見学しました。

入所日に木製修羅(古代の運搬用ソリ)を見学しました。その大きさに(8m)に圧倒されるとともに、右側の幹が振れていることに気が付きました。保存技術には限界がある。衝撃の事実でした。変形した遺物を基に研究した成果には間違つた歴史観を生み出す恐れがある。直感的に感じ取りました。記録保存の大切さに気が付きました。そこで、文化財の記録に3D計測技術の導入の着想を抱き研究を始めました。文化財ドクターとしてこれまでに手掛けた仕事 3Dデジタルアーカイブの研究

では考古遺物用3D計測システムの開発や遺雲大社出土の御柱や石垣、古墳石室他の遺物、遺構、遺跡の3D計測を手掛けました。1996年には加茂岩倉遺跡出土の土付銅鐸を積層造形法(今の3Dプリンター)による日本初の本格的なデジタルレプリカの製作や茶すり山古墳埋葬主体の1/6の遺構の縮小デジタルレプリカの製作を行っています。

保存修理では356本の銅剣を出土した国宝荒神谷遺跡出土青銅品や陰陽鏡を発見した国宝東大寺鎮壇輪の修理や宝塚古墳出土の船形埴輪や日本最大のメスリ山古墳出土の埴輪の修理等多くの修理も手掛けました。

近年は、展示活用の観点から、展示台の開発や多くの復元模造品の製作も行っています。また、文化財輸送の研究成果を世界初の除振パレット、輸送環境モニタリングシステム、

ソーラーによる完全空調システムを実装したハイブリット車の文化財輸送診断車シバラII号の開発という形で実現しました。

その他、海外調査でもエジプト他で、ピラミッドや神殿はじめ、遺跡の保存調査や遺跡・遺物の3次元デジタルアーカイブに携わっています。

### 自然科学と人文科学を繋ぐイン

自然科学としての役割 自分を理工系と人文系を繋ぐインテリフェイスとして考えており、入所後に大阪大学で本格的に考古学を学ばせていただき、考古学研究でも古代の鍛冶・金工技術や甲冑、馬具の研究を行い、近年では祭祀研究も進めています。やはり、文化財を残し、伝えるためには保存科学だけでなく、文化財の研究で何が重要であるかが理解でき、人文系の研究者も認められます。この立ち位置が研究や保存修復をより実りあるものにすると思っています。

一昨年、生駒の保存科学センターと奈良の人文考古学研究室が統合して総合文化財センターが新設されました。人文科学と自然科学が1つの組織として同じ建屋で動き出しました。センター長としての私の使命は文化財という過去から現在へ、現在から未来へと残し残されていくべき人類共通の貴重な人類のメッセージを、真の学際的な調査・研究・保存修復を通じて、1点でも多く正確に伝え、残し、これを広く活用していくための研究組織を構築して、発展させる、存続していくことでもあります。その裏方の地道な仕事を積み重ねた結果が、新しい文化創造のエネルギーを

育むことに活かされれば幸いです。



# 支部・OB会だより

## 取手支部桜水クラブ

取手支部長 海東 宗平(高11回)

本支部は、会員の中で最も高名な一人である木内幸男氏(高3回、以下「木内監督」)が取手市に住まれ、平成24年取手市名誉市民に就任されたことを奇貨として、平成25年2月23日設立されました。高校野球指導者としての木内監督の偉業は、会員の皆様にご案内のとおりです。取手市は、平成24年にその功績を称え、名誉市民の称号を贈り、市を挙げてお祝いされました。

一方、取手市には同窓会名簿に600名程度の会員がおり、茨城の玄関を標榜していたにもかかわらず、支部がありませんでした。幸いなことに木内監督の母校最後のチームの主将であった萩原孝氏(高9回)がお住まいだったことが、会の開催に大きな力となりました。

この記念すべき



会には、大曾根宏亮副会長と当時の杉山博副校長が出席され、木内監督名誉市民ご就任と支部設立のご祝辞をいただきました。木内監督からは、指導当時の母校の状況や、取手二高・常総学院における秘話が披露され、出席者全員が挙ってお祝いしたところです。以来同年10月から、毎年本部と母校のご来賓の出席をいただき開

催していますが、出席者が先細りになっていくため、出席者の拡大に努めています。会員の皆様のご出席をお待ちしています。

なお、母校の副校長に市内在住の先生方が三代続いて就任されていることは、本支部にとりまして力強いことであり、誇りであります。

## 美浦支部

支部長 堀越健一郎(高5回)

私も進修同窓会美浦支部は、先輩方の御尽力により長い歴史をたどってきましたが、前任支部長、幹事のご逝去の後、10年余にわたり、久しく活動を中断してまいりました。

昨年、関係者の集まりの席で、何人もの方から、「進修同窓会美浦支部の再開」を願う声が相次ぎました。それ以来、土浦一高創立120周年の祝賀行事に合わせて、支部活動再開の計画を進めてまいりました。まずは、母校の同窓会名簿や支部名簿をもとに、約300名の方に進修同窓会美浦支部の再開と会費納入のご案内を差し上げました。その結果、70名のご賛同、ご協力をいただきました。

そして昨年の11月、支部活動再開の総会開催にあたり、特別企画として、総会前に母校、土浦一高を訪ねることとしました。その日は、老朽化の激しかった旧本館大修復工事の真っ只中のところ、作業員の方々の真剣な仕事ぶりが強く印象に残りました。

私どもの一高訪問と見学に付き添ってくださった明賀副校長先生

からは、修復工事の概要や現在の土浦一高の教育活動、「社会に役立つ人材と国際的に活躍できるグローバル人材の育成」等についてご丁寧な説明をいただきました。学校全体の躍動感に包まれながら、身の引き締まる思いと一高出身の誇りを感じました。私にとつて、卒業70年後に観る一高の力強い姿には感無量のものがありました。

その後の支部総会と懇親会の席では、進修同窓会副会長の青山和義様、土浦一高副校長の明賀靖子様のご臨席をたまわり、高校時代や今の活躍の様子等の話題に花が咲き、和気藹々の名残尽きない盛会となりました。

支部活動再開の総会を経て、今年の3月には、これまた久しく休止中だった「美浦支部だより」を発行いたしました。今回の「支部だより」第13号には、若手会員からの寄稿もあり、支部再興の号にふさわしい新鮮な紙面となりました。

私どもは美浦



支部再開の第一歩を踏み出したわけですが、あくまでもまだ「第一歩」です。若手会員の参会者を増やすこと等々、今後、様々な課題と向き合って歩を進めていかねばなりません。

私どもの今後の活動が母校、土浦一高への一助となれば幸いです。多くの会員と手を握り合いながら、進修同窓会美浦支部の益々の発展に努めてまいりたいと思っております。



# 120周年記念事業報告

## 旧本館改修記念内覧会行われる

同窓会副会長・式典委員長

武井 秀一 (高23回)

計画から10余年、国指定の重要文化財である本校旧本館の改修工事がやっと終了しました。最初は全面改修を目指しましたが、その間に東日本大震災があったため、部分改修に変更せざるを得なくなるとの紆余曲折の末、平成30年3月に工事を終えることができました。部分改修と言っても、在来の煉瓦造基礎内側への鉄筋コンクリート製基礎打設による基礎補強と、在来の柱・筋交・土台端部へ金物を取り付けることによる金物補強などの耐震補強を行い、そのため内部の床板や漆喰壁を部分的に解体するなど大掛かりな工事でした。また、雨漏りなどで腐朽した柱や土台の取り替えや昭和42年の屋根の改築で新材材になっていたものを創建時の天然スレートへ葺き替え、校舎側面の板壁に近しいものへ塗り替えるなど、文化財建築物保存技術協会の指導を受けながら、文化財として今後永久に保存していくとの強い決意のもとに行いました。もちろん、工事には、それ相当の期間(2年半)と経費(約4億円)がかかりました。経費は国・県から、そして同窓会の皆さんからの寄付金とで賄いました。

係者をご招待してお披露目会である「旧本館改修記念内覧会」を実施いたしました。今年の夏は記録的な暑さのため、会場を当初案の進修記念館アリーナから冷房の利く進修記念館内に離接している学習館に変更して行いました。国からは文化庁文化財部長山崎秀保様、県からは副知事の小野寺俊様、教育長の柴原宏一様、地元から土浦市長の中川清様をはじめ、多数の来賓のご臨席のもと、同窓会本部役員と各回卒業生の代表である評議員等90名の出席を得て午後3時から行われました。幡谷浩史同窓会長、杉田幸雄校長の挨拶の後、来賓からご挨拶をいただきました。いずれも、本校のみならず、国、県そして市にとつての財産でもあるこの旧本館の素晴らしさを称え、今後大いに活用することを期待する内容でした。さらに「土浦中学創立と旧本館建築の歴史」との表題で大曾根宏亮同窓会副会長から講演があり、最後に全員で校歌を斉唱し会を閉じました。

続いて、旧本館前で出席者全員による記念撮影を行い、改修された旧本館を見学して、内覧会を終了いたしました。その後は、市内のホテルに移動し祝賀会に移り、和気あいあいと賑やかに旧本館改修をお祝いしました。今後は、改修された旧本館を展示や見学だけでなく、講演会や勉強会など、多面的にどう利用していくかが課題です。

なお、この旧本館改修は、募金活動、記念誌刊行、記念式典とともに本校創立120周年記念事業の一つとして位置付けられており、この内覧会をもってすべての事業が終了したことになります。同窓会の皆様のこれまでのご支援とご協力に心から感謝申し上げます。



茨城県立土浦第一高等学校 旧本館改修記念内覧会 平成30年8月3日

## 募金のお礼

同窓会副会長・募金委員長

小野 治 (高9回)

皆様方には、120周年記念事業に伴う募金におきまして、多大なご支援ご協力を頂きましたことに感謝申し上げます。

募金につきましては、平成27年12月発行の同窓会会報に、募金の趣意書と振込用紙を同封させて頂き、「10口1万円以上のご援助を」として募金を開始いたしました。

しかし、平成28年の半ばにおきましても目標額8,000万円にはほど遠い状況でしたので、税務署の所得税寄附金控除期間を更に1年間延長する手続きをとり、平成29年12月末日までといたしました。更に、各学年の代表評議員さんにお集まり頂いて話し合いを行い、各学年100万円以上ないしは50万円以上の目標額を立てて募金活動に努めることとなりました。また一般有志や支部総会開催時においても、同窓会副会長等から旧本館耐震改修工事の状況や募金現況を報告しながら募金の依頼を再々行ってきました。各学年代表の評議員さん方のお骨折りがあり、平成29年9月、目標額に達しました。募金期間約2年1ヶ月に亘つての総寄附金額は、81,862,366円となりました。

募金については、500万円を超えた学年等は4学年、100万円を超えた学年等21学年、また複数回募金に協力頂いた方々もありまして、3度納入の協力者83名、2度納入の協力者344名となつて、延べ募金者2,593名となりました。



以上が創立120周年記念事業におきましての募金活動報告でございます。

今後とも母校発展のためには、皆様方の深いご理解と多大なご援助を賜っていかねければならないことと思っておりますので、更なるご協力をお願いし、土浦一高創立120周年記念事業の募金につきましてはのお礼といたします。大変有り難うございました。

創立120周年記念事業状況報告

1 記念事業実行委員会開催について

- 平成28年6月11日(土) 第1回実行委員会
- 平成28年8月6日(土) 募金委員会(各学年代表者)
- 平成28年9月24日(土) 第2回実行委員会
- 平成28年10月29日(土) 臨時実行委員会
- 平成29年2月18日(土) 第3回実行委員会
- 平成29年5月24日(水) 式典委員会
- 平成29年6月10日(土) 第4回実行委員会
- 平成29年7月9日(日) 記念誌編纂委員会
- 平成29年7月22日(土) 記念誌編纂委員会
- 平成29年8月22日(火) 記念誌編纂委員会
- 平成29年9月6日(水) 式典委員会
- 平成29年9月16日(土) 第5回実行委員会
- 平成29年11月7日(火) 式典委員会
- 平成29年11月11日(土) 第6回実行委員会
- 平成29年11月18日(土) 創立120周年記念式典

2 記念事業について

- ① 120周年記念事業募金
  - 募金総額 81,862,366円(2,593名)
  - ② 旧本館校舎耐震補強改修工事関連に伴う茨城県へ募金の寄付行為(募金額80,350,407円分)
  - 現金80,028,897円を寄附)
    - ア 旧本館校舎耐震補強改修工事負担金 60,000,000円
    - イ 旧本館教室冷暖房設備費 8,500,000円
      - (学校令達で30年7月末日竣工)
    - ウ 旧本館校舎周辺整備費(樹木伐採剪定等) 11,528,897円(学校令達で30年7月末日竣工)
  - ③ 創立120周年記念式典
    - ア 記念講演・東大総長五神 真先生
    - イ 祝賀会
  - ④ 記念誌「進修120年」発行
  - ⑤ 部活動部室建設(平成28年4月9日贈呈式挙行)
  - ⑥ 校旗新調(平成28年2月29日贈呈式挙行)
  - ⑦ 旧本館展示物移動費
- ③ 旧本館校舎耐震補修工事完了に伴う内覧会について
  - ① 期日 平成30年8月3日(金) 午後

土浦一高創立120周年記念事業収支計算書

収入 単位:円

項目	予算額	収入額	比較増減	備考
1 篤志寄附金	80,000,000	80,028,897	28,897	
2 繰入金	48,500,000	34,869,126	△13,630,874	別途積立金会計から補助
3 記念事業助成金	0	2,200,000	2,200,000	全日制・定時制PTAより
4 雑収入	0	1,513,742	1,513,742	預金利息・直接持参者寄附等
合計	128,500,000	118,611,765	△9,888,235	

支出 単位:円

項目	予算額	支出額	比較増減	備考
1 旧本館校舎修復工事費	60,000,000	60,000,000	0	茨城県に寄附(平成30年1月31日)
2 旧本館教室冷暖房設備費	8,500,000	8,500,000	0	茨城県に寄附(平成30年1月31日)
3 旧本館校舎周辺整備費	11,500,000	11,528,897	28,897	茨城県に寄附(平成30年1月31日)
4 記念式典費	20,000,000	12,735,892	△7,264,108	
(1) 消耗品費	3,160,000	426,827	△2,733,173	記章、記念袋、スリッパ、一高どらやき外
(2) 印刷費	3,325,000	1,411,057	△1,913,943	案内状、式典しおり等印刷
(3) 会場設備費	820,000	276,228	△543,772	看板、飾り花等
(4) 記念品費	2,240,000	2,161,864	△78,136	ペーパーウェート
(5) 周年記念誌費	6,000,000	5,937,516	△62,484	記念誌編纂
(6) 記念講演費	800,000	276,728	△523,272	講師謝金、モニター機材レンタル他
(7) 新聞広告費	1,000,000	1,118,560	118,560	新聞広告
(8) 祝賀会費	2,000,000	858,596	△1,141,404	祝賀会経費
(9) 雑費	655,000	268,516	△386,484	会議お茶代他
5 内覧会費	0	446,490	446,490	記念品、写真代等
6 旧本館展示物移動費	6,000,000	5,292,602	△707,398	展示ケース等搬出・搬入費
7 部活動に関する改造部室費	20,000,000	17,655,944	△2,344,056	
8 新調校旗費	2,500,000	2,130,300	△369,700	
9 寄附金振込負担金	0	321,640	321,640	
合計	128,500,000	118,611,765	△9,888,235	

上記のとおり創立120周年記念事業収支報告致します。

平成30年9月14日

土浦一高創立120周年記念事業実行委員会委員長 幡谷 浩史

監査の結果上記のとおり相違ないことを認めます。

平成30年9月14日

監事 熊木士郎 ㊟  
 監事 松井泰寿 ㊟  
 監事 杉山博 ㊟

120周年募金各卒業回一覽

卒業回数(年3月卒)	募金額	人数
～中37回まで	6,000	2
中38(昭14年卒)	210,000	2
中39(昭15年卒)	10,000	1
中40(昭16年卒)	6,077,000	12
中41(昭17年卒)	33,000	5
中42(昭18年卒)	63,000	6
中43(昭19年卒)	93,000	11
中44(昭20年卒)	267,087	12 ※
中45(昭20年卒)	1,297,000	19
中46(昭21年卒)	121,000	12
中47(昭22年卒)	73,000	8
中48併1(昭23年卒)	439,179	25 ※
中49併2(昭24年卒)	108,000	12
高1(昭24年卒)	183,000	7
高2(昭25年卒)	415,000	13
高3(昭26年卒)	5,372,000	28
高4(昭27年卒)	7,536,000	42 ※
高5(昭28年卒)	1,474,459	69 ※
高6(昭29年卒)	1,544,000	50 ※
高7(昭30年卒)	1,620,000	29 ※
高8(昭31年卒)	2,482,000	112 ※
高9(昭32年卒)	1,476,000	114 ※
高10(昭33年卒)	1,462,000	71
高11(昭34年卒)	1,172,000	59
高12(昭35年卒)	1,217,648	65 ※
高13(昭36年卒)	977,000	49
高14(昭37年卒)	1,135,000	63
高15(昭38年卒)	954,000	60 ※
高16(昭39年卒)	1,335,000	65
高17(昭40年卒)	3,055,000	61
高18(昭41年卒)	2,773,000	150 ※
高19(昭42年卒)	2,002,959	99 ※
高20(昭43年卒)	1,234,000	76
高21(昭44年卒)	1,375,000	49
高22(昭45年卒)	635,000	34
高23(昭46年卒)	1,539,000	58
高24(昭47年卒)	685,000	37
高25(昭48年卒)	1,398,000	45 ※
高26(昭49年卒)	555,000	31
高27(昭50年卒)	571,000	32

卒業回数(年3月卒)	募金額	人数
高28(昭51年卒)	533,000	39
高29(昭52年卒)	958,000	55
高30(昭53年卒)	792,000	26
高31(昭54年卒)	216,000	23
高32(昭55年卒)	449,000	41
高33(昭56年卒)	661,000	35 ※
高34(昭57年卒)	152,000	16
高35(昭58年卒)	1,168,000	21 ※
高36(昭59年卒)	1,490,000	61 ※
高37(昭60年卒)	299,000	29
高38(昭61年卒)	421,000	23 ※
高39(昭62年卒)	140,000	12
高40(昭63年卒)	548,000	21 ※
高41(平元年卒)	210,000	8
高42(平2年卒)	164,000	21
高43(平3年卒)	495,710	11 ※
高44(平4年卒)	353,000	14 ※
高45(平5年卒)	145,000	13
高46(平6年卒)	210,000	21
高47(平7年卒)	174,000	19
高48(平8年卒)	43,000	7
高49(平9年卒)	97,000	11
高50(平10年卒)	90,000	12
高51(平11年卒)	107,000	12
高52(平12年卒)	55,000	7
高53(平13年卒)	140,000	8
高54(平14年卒)	98,000	11
高55(平15年卒)	55,000	6
高56(平16年卒)	62,000	9
高57(平17年卒)	113,000	12
高58(平18年卒)	50,000	5
高59(平19年卒)	90,000	6
高60(平20年卒)	71,000	9
高61(平21年卒)	80,000	8
高62(平22年卒)	76,000	8
高63(平23年卒)	66,000	9
高64(平24年卒)	101,000	10
高65(平25年卒)	187,000	23
高66(平26年卒)	149,000	20
高67(平27年卒)	150,000	14

卒業回数(年3月卒)	募金額	人数
高68(平28年卒)	75,000	8
定1(昭27年卒)	5,000	1
定2(昭28年卒)	65,000	4
定3(昭29年卒)	25,000	3
定4(昭30年卒)	96,000	6
定5(昭31年卒)	30,000	6
定6(昭32年卒)	20,000	2
定7(昭33年卒)	52,000	2
定9(昭35年卒)	23,000	3
定10(昭36年卒)	70,000	5
定13(昭39年卒)	50,000	2
定14(昭40年卒)	110,000	2
定15(昭41年卒)	70,000	5 ※
定16(昭42年卒)	47,000	6
定22(昭48年卒)	10,000	1
定24(昭50年卒)	3,000	1
定25(昭51年卒)	10,000	1
定40(平3年卒)	10,000	1
定53(平16年卒)	20,000	2
定58(平21年卒)	3,000	1
定60(平23年卒)	10,000	1
定61(平24年卒)	35,000	3
定62(平25年卒)	3,000	1
定65(平28年卒)	2,000	1
定時制部会	150,000	1 ※
通信	55,000	5
進修同窓会支部	240,000	5
現職員	835,000	27
旧職員	1,041,000	60
在校生	110,324	1
企業一般	12,153,000	15

※卒業生一同含

募金総額 81,862,366円

納入総数 2,593名

2回納入者 344名

3回納入者 83名

120周年募金寄付者一覧  
土浦一高記念事業実行委員会

一般

(株) 石川建築設計事務所  
(株) 大久保写真館  
草薙木工(株)

中川商事(株)  
中川ヒューム管工業(株)

(有) 小林一夫建築研究所  
(株) 志ち乃  
(有) ナカムラスポーツ

ハタヤ商事(株)  
池田林業(株)

(株) 星総合設備  
土浦一高応援指導部OB会

カオオカ ミチコ  
土浦一高応援指導部OB会

現旧職員

松山武小井近市稲鈴友小荒根栗橋藤直後白金市飯青大木酒今塚染沼  
本山田川藤川葉木部泉川本原本井井藤井塚村島木畑村井橋本谷田  
美雄敏裕浩発英龍正和直健久美良文みカヲ美知子恵久子信義  
雪修司潤介子彰一二夫子尚滋男子亮茂和司子仁夫雄ちル子洋雄

藤増瀬砂鈴寺佃鈴倉横森小菊柴菊鶴大榎青猿根大菊吉大舊戸横宮橋平  
田子能山木田木持島田瀬池沼池卷竹戸山田本塚池武貫橋部倉内本  
一勝明裕佐敦正正義正祐正克紳勝和喜代由栄和和健忠増  
輝男美美与真之人男昭彦子樹仁郎夫勉也子涉記一節郎力章守夫治一三

奥矢中石42加井額吉41関宮中木幡坂齊木40飯39菊遠38岡36筑波銀行桜水会  
井山口山井川坂賀田口本島崎谷本藤村庄左衛門夫幸馨  
勝四克廣信武利西祐達正成  
二郎守則行之人裕夫嗣実真一俊明行

桜稲風福平47飯吉和藤末長桜瀧46飛戸渡廣大奥松久廣櫻飯豊宮45中川中江清萩鈴小分44高大川井坪横上滝橋43住  
井生間見塚田田田廣島井沢田張邊瀬塚井信庭瀬井野崎本  
嘉昌隆三義和静弘三次礼光一卓敏保彰健同宏龍隆敏達武義正照一正幸惠  
元穂隆久司郎昌一男功道郎雄義記夫郎保繁茂也夫之一寛一昭一夫郎泉守雄男秀夫美勝宏治郎之一教

檜奥染大倉井原市高2川鈴比砂大森今高1岡伊高源多併中真郡田中大49石大石沼併中瀬来倉澤岡桜羽前須柴山大48飯久  
山井野嶋田坂原村木企山貫橋野原橋田野回中崎島谷井内井尻回高48尾栖田野井成野田沼口塚回野野  
邦博重安悦光嘉和義隆武光英義善延一信忠貞聡孝宗孝四一保尚茂  
良清司徹久靖道靖宏郎雄幸郎昭昭馨正一也夫雄隆彦勇進夫宏亘雄同雄雄弘治明之馨郎男郎已雄夫男

飯宇高羽原岡須塚五近関中岡飯角山海木土本福渡須石大曾根山中高入4鎌木奥飯田露小加幡立磯宮川松黒長新堀中3榑  
塚多橋成田田田嵐藤島野田田口上村肥橋田辺藤井根山木江田島井塚畑木松固谷原山代鳥浦子澤谷畑野  
寛一尚政和研貞宏明久哲毛弘郁千道真靖宏真弘俊貞昌世幸伸和剛淳淳靖悌直幸一  
治章道勇道猛男男一夫明男男也利典明男司明正卓一男亮郎一昭夫毅則男男武彌夫司守章一夫郎二宏勇薫豊

大永柴飯吉上新矢辻塙黒小池西稲奥林酒飯戸米内北御本植尾飯塙名小野上馬御青岡宮高広張齊高5岡友幡野吉黒  
沢島崎田田住井口田田田谷葉井井島井田山島寺間木形村雪倉口田場寺木野本橋瀬替藤回4部寄谷尻田田  
三秀修靖嘉次晴勝哲光恒清恒久良昭常晴満正孝隆芳省道米明義光正啓俊岑同恒英浩和秀  
雄恭省也邦郎男彦博夫夫樹雄男弘夫義治男郎雄雄和一雄夫三弘夫章司子実士也行義郎郎彪明生文哲史幸茂郎

羽大関寺久佐柴高7高吉岩片鈴久衛大裕川長梅行之市齋木阿深塚永福栗栗西都土宮田岡信中酒宮高6富橋山砂今島中  
鳥塚内松藤崎回6回井佐岡木家藤村田田南原内塚藤村倉見田井田又原川賀井本中本本田川井内回5回永本崎川泉田島  
弘雄信静成季同正和親義多三武弘史尚清豊英宏信弘教恵陽弘宗正徳同達定憲武直泰  
章一男毅二一雄泰子博雄之子彦二朗実久廣英昭明彦昇直弘毅介子彦修之輝重男章元二也也勉二夫彦男

田大清矢岡五山蓮齊飯豊高助井中岡沼山高塚関矢関山嶋横高中田高8古関糸加松坂川藤宮植長長嶋高船市齋安  
崎野水口田頭口藤岡崎橋川坂山野尻内野本口須口田田手野村崎松回7回川賀固本寄田平本木田村田串村藤田  
包金鉄勝三隆忠幸泰義陸正忠政幸良晴正一光信秀有志貞香修正茂茂敏勝元浩弘和節禎  
康一弥英美治恵治修仁親尚卓正朗正信夫仁夫一光雄康則郎夫秀男忠同義椎平敏男夫子淳正生一道忍信夫実勉行

田矢小長酒中青矢吉萩入矢高小齋細武清佐稲堀福山小天武酒中飯田来鈴長赤中秋岩山本高大熊成渡栗鈴藤露色岡  
 村口網沼井本山口藤谷江口野林藤谷藤水野見内澄本野貝藤井泉島中栖木島塚島山井田川野保木瀬辺山木井木川  
 五祐節聰青和三常通平久道充章 文允噎文嘉寿重道敏友国茂丈久弘眺 真滋邦軍 秀士 英忠英章 嘉順  
 恒郎司治而士義豪善雄夫郎弘利平夫明隆美昭子利子夫雄美充孝夫雄夫義道一進澄路雄治博雄郎章一夫世寿修一一

吉加鈴幕小神高久久鈴篠小関助河飯小川雨関矢原相山坂服小入田佐鈴古古鈴小中山飯渡菊木片岡塚 高 9 高 秋 小 渡  
 田 藤木内林林木田家木塚野 川野島野場貝 口 沢口根部野江尻野木徳森木貫里田村辺地曾岡野本 回 8 回 田 崎 辺  
 勝右衛門 勝重利嶺隆文満 守秀徳 士昭康幸康 文 侑和 輝或 弘仁秀 利貞利道隆秀秀剛和義 義 同義  
 門雄彦男道男夫男光夫雄男昭朗徳男正雄良彦寛司生宏一雄治志一夫勝光弘憲男憲生文男也雄忠光寛 明皖登晃

松廣菊淺平稲岡関村山鎌石新清鶴小堀岩三福篠前鯨萩福酒岡酒朝小田沼加小柏谷小桜和来田貝阿中親斎福清伊蛇  
 葉瀬地野沢葉田 田口田川井水町林口田山田崎野井原田井部井奈川嶋田固崎 中崎井田田村塚部島見藤 長 左 春  
 尚禮恒弘利 茂宗 博秀隆喜和希章 弘文宏 銑久安美國彌政 啓正 恒士俊哲光尚義喜彰 工 誠  
 修之子雄道男誠功夫弘裕郎夫夫男博望一茂隆人男爵孝郎治男智男郎秀新英榮要績斌男郎男三雄光孝夫良門誠実樹

片柴丸久内廣中小安廣市高飯株関五湯國高内田矢鈴市中福久星水水塚堀荒竹小寺本渡林幕今宮 高 10 高 田 柴 仕 菊 佐 矢  
 岡沼島松田澤村倉藤瀬川橋田木井来原谷桑村村口村村嶋澄田野野谷越越木内森田橋辺 内橋崎 回 9 回 口 黒田野口  
 広英秀建 朝志英統昭高伸龍 康孝勝一照 武 博 長允益徳紀 富真昭尚英 征 莊富忠 同 定 徹 久 次 純  
 哉夫明一勇夫夫男雄一治一實雄輔明男夫隆夫淳一浩重男充博一宏雄哉雄雄生勝彦征治六男志 男也博男二茂

藤杉田山蓮杉川山糟浜酒市市本高西菊佐大弓大山鴻塙酒飯久大岡狩小有海松田新中 高 11 直 平 桜 吉 谷 安 皆 小 宮 大 桜 石  
 井山尻口田田上口谷 井川川橋野谷田賀槻家圃崎巢 井泉田関野野野馬東澤村井村 江 井 田 田 藤 野 本 崎 井 井  
 伸 浩金俊 育洋昭紀 隆南純善善哲秀憲宏 春敏正 靖勇 宗勝 雄好 忠堅重延俊秀嘉慶和治富一  
 二匡二三男貢稔完清雄次子行紘郁義男一司保生夫一志正長行已忍夫一賢平郎操啓隆 則次智男夫徳宏一夫夫夫男

大諸松石浜小高大富石佐富高笹大 小 瀧 塚 来 宮 桜 伊 牛 谷 北 日 南 本 高 浅 飯 勝 池 中 鈴 木 堀 高 12 小 青 島 下 青 川 長 本 武 中 柴 藤  
 塚橋沢林田倉野保田内野岡山目山崎崎本栖崎井山 木 中 島 部 原 橋 野 野 島 野 上 村 木 内 畑 泉 木 田 代 木 村 瀬 多 井 里 崎 井  
 基邦昭守 光 正可 昭一克 文洋文 克 哲良瑞清浩 重三直鐵秀 智道信 俊幸英恒 祀宗達 勇文  
 武之幸子男衛雄明弼城正三郎夫昇夫之彦功節巳宏夫雄男臣一衛郎則也雄輝昭雄昭忠 彭夫樹夫繁子男三紀郎男徹

足梅片富 高 14 村大塚黒平高平嶋金中狩宮清横金貝齊秋秋片久加五高根坂飯齐中江奥三川芦長酒 高 13 東 京 三 和 会 三 五 合 ル フ 研 修 会  
 立村山田 山塚本岩岡野塚田谷川谷本水田子塚藤山元岡重藤頭安本入村藤根田井輪島田坂井 回 回 野 貫 木 藤 井 井  
 寛和 高 正 芳偉美大芳寛喜雅 昌 功國満尚昭信光 康俊和 勝 克 志 一和正幸 宣勝昭俊洋  
 作子旺文 夫紘雄明夫郎雄文郎弘満子浩功雄光清夫臣彦人勳彰介明忠佐康之弘瞭郎男子俊一 孝夫彦南夫一

宮貝酒山檜桜鶴貝幾野中諸杉北田三高萩舟市新森南増渡大山木中古草荒岡矢桜佐仕岩滝木久飯三久内藤大飯飯中  
 本塚井口戸井町塚浦口島岡山川中輪木原崎村井田 田邊越本村澤徳苧川野口井野黒澤川内松田輪田田槻坂田村  
 武忠 一正洋和貞忠勝三 久正 義 英恒茂卓義隆壯範 勇芳弘尚道正照照武秀敏和 克 三康勝一定尚卓信孝  
 憲男治樹治一夫夫男可三章郎之仁治有彦義雄夫彦男彦夫光夫弘基一雄吉男雄男子男子昇行猛年史洋廣也男弘義雄

横野金 高 16 佐 齋 福 関 檜 鶴 高 嘉 高 大 刈 鈴 哇 奥 古 野 中 野 市 宮 中 島 塚 海 中 福 齋 藤 犬 星 宮 小 松 增 加 鈴 永 金 小 山 大 下 窪 武 高 15  
 田口田 回 々 木 藤 岡 戸 町 久 藤 野 川 込 木 地 井 田 口 條 村 澤 嶋 村 田 本 根 原 根 田 藤 田 伏 野 本 貫 浦 田 瀬 木 松 山 幡 田 保 村 谷 田 本  
 有惣 紀鷹和 典昭正眞 智慎明典洋英正武ル忠光昌卓 啓孝幹 武 幸茂英邦博せ 恵洋政隆一鉄公正 和  
 平郎稔 子一子至子則一人忠之二夫子郎夫徳樹ナ夫昭平光章郎雄男勝夫敏忠男樹二彦正子一光人士男男敬 男

杉宮佐高片大大岩井小高小大倉前菊齊関鶴細狩高五上深色今大細雨沼田中石古下友篠川前中木與永幸古石木渡小  
田崎川木岡崎高井上澤橋野崎田田池藤 町野野野頭野谷川永野野貝口崎村田沢辺部塚島島崎村井島田所原村辺林  
捷遼広 罔高正 柁重達俊 英凌清倉章 文八雅英幹俊卓百 英二菊武創栄 幸 孝 博正 保 徹 崇邦章  
機治興弘彦嗣一武弘夫也雄誠行一彦一夫弘俊郎郎明造恒男子章一郎郎男蔵一馨夫明夫喬美弘照正喬浩夫昇之雄文

久相神服櫻大大田白飯小深慶葉伊廣鈴山諏訪松小大栗小鈴前大江大横坂高浅佐川大田渡片白堤川寺中前塩鴻天<sup>高17回</sup>佐野  
保 田原野部井高根尻田貫山野梨藤瀬木本原崎田山林木沢竹崎保山本橋野藤上槻村辺岡瀬 村田山沢原巢田 藤 口  
和 一孝清純眞 英利 和巳正 里津 正孝和晃高政伸 和孝 恵 庄信賢勝 隆庸義 良政修憲富司 重  
隆男昭喬男三治雄治誠孟房文修久良一子守弘夫紀一道治一實男義榮子晟一郎一次檀治郎雄清肇一次蔵明男 樹守

三沼坂糸村辻塚丹小堀桜木一萩安竹今吉湯矢村向水深浜永富高久北金小岡岡大大浦一中河長槽岡高飯久待高<sup>高18回</sup>  
輪田入賀山 原羽鳥江井村条原井下泉田原作山井越作野井田谷田沢関野本野山津塚野戸村合戸谷崎橋塚松田崎  
良良文 幹信悦晃利恵玉矩敏俊恵圭房治 英 章 成信信清延哲 久 信輝滋博保 邦尚俊哲幹稔孝  
和香子節古行夫一夫子江男夫夫子子子夫敦徹夫徳郎己忠始秋之雄行幸也正雄清一郎夫道治隆琴弘俊之哉雄雄男

大仲湯伊松柳矢安齋中桂片円田沼鶴大若長熊石助沼富美大田洪滝田塚石井柳鈴稻仁石軽山矢大押香広横大小野石  
塚田原藤崎澤口藤藤村 山寺口田田峰松沼城渡川尻田町祢上谷田中本毛菽澤木見平島部村口橋野取瀬田向林口上  
健喜幾 健道和治良 栄 和建博亮秀紀憲幸 隆 恭 廣 静節 好一利 健暢典 五 雄 洋仁知金厚卓  
二重男操郎弘彦雄彦久治学則雄品子樹男生子清志茂平力伸顯治子豊治美明武一一子守一章賢一浩治司夫弥雄男清

額吉服田村田浅鶴久富守木馬昼平寺飯雨伊高<sup>高19回</sup>吾中鈴根川後中吉磯久後宮太栗今高海山鎮葉平江中相長今高郡  
賀田部中松中野町田山屋村場田塚海藤野<sup>高18回</sup> 妻島木本島藤村田部松藤脇田原井橋藤岡西梨山夏泉澤南泉山司  
利克敏己輝 文修正博哲清俊秀 敏 敬忠 忠志 房富はる 正信利 み 文 忠 美健 あ悦興哲英 泰  
三己雄永美栄勉男二男正夫康雄男満夫隆久男 建男郎功宣夫み茂良明男清子孝彰誠雄憲子次隆さ子二夫郎了彦

深荒谷大岡石下川岡富宮田栗原師中石山瀧鈴桐高原倉岩松本寺庄兵高足細村佐増古宮中仲内菊萩平竹菊宇小竹松坂  
谷張貝坪野川村根崎田島中 岡泉川口平木原倉田原間崎多田司藤野立野井藤測渡内山田田地原山中池川泉井田本  
章晴一 博良直義 幸 吉右一 英 暁孝 博政知茂正 高博正幸重 元善保紀和庸勝利二廣幹仁 茂  
一夫雄博之昭久行清雄誠隆門司泰寛幸潤仁志武夫雄子樹司勤誠夫行司雄夫賢明平明夫男子雄一郎夫雄郎明雄繁進

倉西宮羽中知中國長藤渡榭矢渡幕小原石光木渡長岡山大霞市西江柳沼今齋墳飯高田横来森<sup>高20回</sup>高横加阿飯渡菊須幾  
野岡本成島久山谷塚枝辺瀨口邊内沢田川永村邊峰野崎保 川本畑澤田泉藤本田木口山栖 <sup>高19回</sup> 回瀬藤間塚辺地賀浦  
謙周嘉省和ひ陽紀 美幸清俊邦孝晋研隆慎一光恵照広信廣俊成栄公國典和 俊儀 伸 同 恒謙哲征一英  
二二博三雄み古夫寛剛吉夫高樹夫子市二一行一男芳三雄行明二郎二次文裕夫治秀男久二 博徳三夫郎男夫久

渡下池関坂飯逆江畑鈴松若額山東岡長菅鈴高安鴻高住佐柴市小<sup>高21回</sup>高寺犬福浜杉稻宮桜小市久久渡杉根保真金鈴長  
辺米端 本竹井幡野木井林賀岡郷崎南井木橋島巢野田藤沼村原 野田田田路浦見崎井林村田田辺田本山家箱木鳥  
良洋和 光一 修秀義泰 光敏順孝文邦孝栄博 哲福道信久芳 仁正勝 節則幸好俊敏秀 孝和揚剛信陽光純  
治彰男学康広誠一樹人壽繁博志子宣子男洋三明茂夫祉男二枝道 一道美豊司夫男廣明郎雄進栄男幸水一夫一章夫

前大宮今鈴程上関柴鮭山<sup>高23回</sup>高荻齊加木嶋物野和伊鈴酒市中園小塚東宮菊平田宮横井竹<sup>高22回</sup>山齊角永阿大市岡池根福助  
鳥塚本泉木塚野 原川岡 野沼藤固村田代田藤木寄塚川部林原郷本池山口崎倉坂中 野藤 井寺塚村野田本田川  
壽健文雅一美眞陸安正 国秀雄俊秀多重泰充良博 義 一直利和 三武 拓泰俊 俊芳陽 博光成博  
謙子次彦人男子人朗男治 男男士男明子穂夫朗治司順雄稔生人人久博仁武弘文隆正 美雄成博洋郎典勇一男志夫



中山渡吉榮岩藤<sup>高</sup>41菅工平木小小大宮林籠太荒棚櫻大<sup>高</sup>40秋倉日津酒田辻清中中大<sup>高</sup>39菅北石市石熊近小中澤田福  
尾本辺岡 潤木<sup>回</sup>40野藤江島崎野塚田 田田居橋井根 田石野賀井中 水山山沼<sup>回</sup>38野岡井川塚谷藤澤川田山岡  
隆俊 隆仁敬史 同由 雅基正真健新一雅 芳岳亮 秀多 宗一雄茂郁 亜<sup>回</sup>紀子 同秀逸高律 信奈 英陽依和  
友樹萌久子子恵 美誠宏博生理司作郎子篤健生史子 樹子有充美介希子仁武子 宣人弘子隆治美潤治郎里也

渥井阿三<sup>高</sup>45鈴三岡大城松小仲守大池富木<sup>高</sup>44岡大大松目大村直小<sup>高</sup>43金白佐小飯小平関大下鈴大汐杉中青鹿<sup>高</sup>42矢  
美川南木<sup>回</sup>44回木島本根 井倉住安坪川田村 本堀屋井次石田井泉 本鳥竹野塚崎田山里野村井崎山村木内 口  
博裕統真<sup>回</sup>由美 同一庸周直文規洋明 徹哲香恭 健伸京繁康奈緒 淳貴健二 幸美伸真寛祐善健利理仁 哲和容俊 和  
行司久美 央孝子人子雄平展功也史織子 同 郎司子忠男子志郎 司和之吾子子毅一明香一琢剛朗浩子之 弘

国酒野奥田綿田角<sup>高</sup>49加竹並小徳福<sup>高</sup>48荒小辻林大見太松吉樋小市<sup>高</sup>47宮瀬守皆尾沼本根佐白徳山水野作<sup>高</sup>46北木由松太  
谷本澤津村引村田 藤井木野本見 張村川 崎目田本田田泉川 川沢谷川嶋田田本藤島本田野木本 郷村波村田  
久正倫 友良修 栄英大耕雅 卓陽剛智奈理春典拓志秀真 友由昌武泰泰哲 千玲貴 哲 弘 淳勇俊朋実  
岳子和明忍博介一 樹雅吾郎則恒 也一志一央歩彦子也保之人 明彦久士実宏史修春子久均雄真子 一人幸幸紀

古戸<sup>高</sup>55馬金一藤萩松廣白<sup>高</sup>54宮外川麻西木小清<sup>高</sup>53結野菊藤徳<sup>高</sup>52白谷上赤豊木古松廣佐小小<sup>高</sup>51本塚山宮猪小小<sup>高</sup>50海  
賀谷 淵谷石田島田瀬岩 本尾畑生保村池水 東澤地田本 倉部山石田村渡浦瀬藤川松 城本下本瀬池野曾 津  
信雅 し考達大康麻 治有共将綾 七理 由奈晶有 博陽 由友善孝佐雅 幸 信貴玲玲崇晶格 泰  
郎治 の洋朗輔弘理幸学 樹子良郎佑仁海人 寿樹央子紀 雅貴弘理子和幸幸雄春大広 宏志大奈志子郎仁 宏

嶋倉中<sup>高</sup>61大細大吉上清岡横岡<sup>高</sup>60中金瀬岡野<sup>高</sup>59鶴山山中渡金<sup>高</sup>58角鈴山稲海太荒中入安<sup>高</sup>57辻荻住長野田松根鬼<sup>高</sup>56高  
田持田 野谷森積野水野山野 川子能野澤 田川本泉次子 田木本田崎田木野江田 野谷島口中本本沢 野嶋  
裕篤憲 忠祐健義翔春公佑康 克敏未政千 雅貴公太香珠 亮絵暁貴昌 理友郁里 尚利昌万明千 拓浩 義泰  
史史吾 恒希太隆平那哉介仁 人明都宏明 大大隆佑代実 也莉久代幸敬行子恵子 宏紗伸映里惠翔哉平 士夫

中菊笠林阿井外真都杉所石横吉村武榎稻横<sup>高</sup>65立松島大天柚山一竹朝河<sup>高</sup>64田小今石岡池深<sup>高</sup>63鶴坂羽金柚原安<sup>高</sup>62藤山田  
村地原 部出岡田賀田 川田田田藤村垣山 石照彦(瑠璃) 健峻佳克竜久 孝 美紗文 俊 真 絢菜明 昂智悠 美公宏  
真真敬蔚健成峻佳亮考英椋理泰 陽昭慶亜 雅(瑠璃) 樹(郎)平穂斗杜恵慶大 羽奈香俊孝聖弘 子摘弓充輝奈杜 来宣昌  
奈裕美然人哉一毅人謙佳太抄朗遼太宏修美

森大塚小<sup>高</sup>67古中大佐宮田柚北久岡横磯橋石鈴松<sup>高</sup>66石岡岸  
本保本野野 村肥松田沼崎村高 木村木留山瀬村田森里田込 賀 手道槻藤本家山澤松村瀬 場垣木延  
貞武秋 剛良 雄咲拓洋佑 泰直和 一萌弘 涉悠裕聖 大智 楓裕昇大佳洋哲巧 暁堅健 千佑真  
淵夫男夫正 将太稜貴子人介哉 健斗哉士諒怜樹花基嵩平輔嘉也 涉貴貴陸貴也範暉朗祐也磨恵正也斗 呂子衣

この寄付者一覧の掲載  
順は、納入して頂いた  
順番です。

定15時 定15時 上中吉青寺大岡山森櫻田今高鈴大殿谷洪早武松石貝雨佐菊草中広原橋柳山鈴福高井入岩桜梅竹久  
回制田沢田木門野安中谷井中成柳木沢岡中谷川石岡神塚貝津地菊嶋瀬瀬本沢口木原野上江崎井津内保  
一部会 郷 広哲千佑健忠 良幸保 将和清義 弘 高雅紀宏正幸一 正悦視邦良文敬 光富貞  
同 稔洋里昇人詩鶴莉治男進江恵夫晃男子子宏進記毅勇雄隆夫明雄恵喜誠男弘子男雄雄令實孝夫夫明



# 母校だより

## 第71回一高祭

第71回一高祭実行委員長

3年B組 小島 理彩

今年度も、土浦一高の伝統行事である「一高祭」を、6月2日(土)、3日(日)の2日間にわたって盛大に開催できましたことを、大変嬉しく思います。第71回一高祭の開催にあたって、ご協力を頂きました全ての皆様に、この場をお借りして、心より感謝申し上げます。昨年度、一高祭は第70回、土浦一高は創立120周年という節目の年を迎え、今年度は新たな時代の幕開けの年となりました。昨年度の先輩方が築いてくださった、新たな伝統を引き継ぎながら、私たちらしい色を加えられるように



と、9つの実行委員会を中心に、1年間かけて準備を進めてきました。また、今年度は、4月に改修工事を終了した旧本館で、生徒の企画の展示やコンサートを行わせていただきました。土浦一高のシンボルであり、伝統と歴史のある旧本館で企画を行わせていただけたい経験となりました。

そんな第71回一高祭のテーマは、「歯車」です。歯車は、複数の歯が噛み合うことで非常に大きな力を生み出します。そして、1つとして欠かすことはできません。私は、「この「歯車」というテーマは、一高生ひとりひとりの個性や才能と、私たち生徒を支えてくださった多くの方々の力が噛み合って、大きな力が生まれることで作り上げられる一高祭を象徴していると思います。これからも一高祭が、生徒ひとりひとりが輝ける、多くの方々に愛される場所であり続けることを願っています。

第71回一高祭は、2日間で合計5237人の方にお越しいただき、大盛況のうちに幕を閉じることができました。来場者の皆様に楽しい時間を過ごしていただけたならば、とても嬉しく思います。そして現在は、後輩たちが第72回一高祭に向けて動き出しています。年を追うごとに進化していく一高祭に、来年も足を運んでいただきたいと思います。

## SGH・海外フィールドワーク

SGH推進室長 豊島 卓

平成26年度に、文部科学省からスーパーグローバルハイスクール(SGH)の指定を受け、完成年度の5年目を迎えた。今年度は、2年生7名がマレーシア・シンガポール(8月14〜21日)、7名がオーストラリア・タスマニア島とシドニー(8月14〜21日)、10名がアメリカ・ロサンゼルス(8月13〜21日)でフィールドワークを行った。

今年で4年目となるマレーシア日本国際工科院(MJIIIT)では、現地院生とのワークシヨップ、院生アテンドによる市内フィールドワーク、調査結果プレゼン等を実施した。またジョホールバルではホームステイを行い、現地の生活を肌で感じる機会を得た。シンガポールでは、アジア屈指の名門シンガポール国立大学で学生向けビジネスプランのプレゼンを行った。

これに先立ち、7月には筑波大学名誉教授杉浦則夫先生(高20回)のご案内でMJIIITの学生33名が来校し相互交流を行った。

タスマニアでは、タスマニア大学を訪問し、筑波大学に勤務経験のあるピーターウィルソン教授の研究室訪問を行うとともに、同教授からはご講義を賜った。学生アテンドの街頭調査では生徒達の研究テーマを深めることができた。シドニーでは、ホームステイも体験し積極的なコミュニケーションを楽しんだ。

ロサンゼルスでは、アナハイム市庁舎を訪ね、同市名誉市長でもある、本校元同窓会長幡谷裕一先生(中40回)の銘板の前で本校校歌を熱唱した。UCアーバイン校では、筑波大学アーバインオフイス現地コーディネーター川内紫真子先生のご協力で、学内でフィールドワークを行い、その成果を現地の学生達にプレゼンをして、意見を求める機会を得た。また、日本語クラスに参加し学生達との交流を深めることができた。ホリバインズツルメンツ社の訪問では、ベンチャー企業としての役割と意義をご講義いただき、自分たちの研究テーマに関する助言をいただいた。

この経験を踏まえ、各グループの研究がさらに深化することを期待したい。

## 職員室だより

### 地歴公民科より

主任 有賀 和成(高33回)

進修同窓会会員の皆さまには日頃よりご支援を賜り御礼申し上げます。自画自賛ではありますが、多士済済の地歴公民科の教員一人ひとりよりご挨拶させていただきます。

岡部真二(本校2年目・日本史・3C担任・SGH推進室)

担当は日本史です。「日米修好通商条約」に関しては不平等条約との評価がなされる場合が多いが、別な視点からこの条約について評

価できることはどんなことがあるだろうか?。こんなことを毎時間授業のグループ活動で考えさせています。

坂本拓也(本校2年目・倫理・1F担任・教務部・高40回)

隣の真鍋小学校から6年間仰ぎ見た学校が母校となり、さらに卒業から約30年後、その母校に勤務することとなりました。在学時からの変化は大きく戸惑うことも多々ありますが、生徒とともに成長を目指す日々です。

関 隆一郎(本校10年目・地理・2D担任・進路指導部)

大いなる可能性を秘めた生徒たちと向き合う日々が続く、早、10年目を迎えます。授業第一主義を基本に据え、幅広く生徒を支援できるように、引き続き精進いたします。

柴沼 陽(本校1年目・政治経済・1C担任・教務部)

赴任して以来、次代を担う一高生から刺激を受ける日々を送っています。何事にも主体的、能動的にチャレンジする姿は、正に頼もしいです。私も、生徒の「熱」に応え、「志」実現の一助となるべくよう励んでまいります。

豊田由紀子(本校9年目・世界史・3B担任・教務部・高51回)

今年度は、3年生の世界史の授業を中心に担当しています。現在、3年生はそれぞれの目指す目標に向かって、試行錯誤を繰り返しながら、一生懸命、毎日を過ごしています。生徒の皆さんの進路実現のために、尽力していきたいと思っています。

門井寿通(本校6年目・世界史・2C担任・生徒指導部)

2C担任で世界史担当の門井寿通です。配属6年目。やる気あふれる生徒たちに刺激を受けて、毎日楽しく授業をしています。弓道部顧問で今年初の全国出場。文武両道のこの学校で教員ができることを誇りに思います。

高橋 靖(本校1年目・地理・図書部・高26回)

20代後半から14年間、一高にはお世話になり、今年再び一高で教鞭をとらせていただいています。母校の良さを感じつつ、先生方の足を引っ張らないよう、若い生徒と向き合う指導を心がけて日々を送っています。

有賀和成(本校2年目・日本史・情報室・高33回)

母校に奉職させていただいて2年目となりました。甘くそしてほろ苦く時に辛かった思い出が蘇る中で、現役生たちと過ごしております。いくつかの学校を経て、齢五十半ばとなり、一高にまた辿り着きましたが、本校生は間違いなく天下一品の良き生徒たちであることを実感することができました。ただ厳しい現実の前に押し潰されそうになり、輝きを失いかけている生徒もおります。そんな生徒たちにも寄り添って勇気づけて歩んで参りたいと心がけております。

進修同窓会会員の皆さまには、今後ともご指導いただけますようお願い申し上げます。

### 部活動報告

#### 弓道部

3年A組 仲村 海音  
土浦一高弓道部は今年で創部53年を迎え、現在2年生8人、1年生7人の計15人で顧問の門井寿通先生、大野岳志先生、中山和哉先生のご指導のもと活動しています。

日々の練習では「文武不岐」の精神のもと、部員達は互いに切磋琢磨し、大会での上位入賞を目標に練習に励んでいます。

さて、ここで少し弓道についての紹介をすると、弓道は射法八節という主に8つの動作に基づいて行われます。この射法八節は弓道における基礎であり全てでもあります。八節に完璧に忠実な射は即ち正射であり、必中の射となります。その理想となる正射に少しでも近づくために必死に練習してきました。



しかし一生懸命に練習してきて

も、いざ大会本番となるとどうしても欲や緊張で頭の中が真っ白になって、結果が出ないということが多々あり、悩んだことがありました。そんな時期の練習中に、先生に「次の一射で勝負が決まると思え」と言われました。そう言われると大会同様に緊張し、思うようにいきませんでした。ですが、それによって練習における一射に集中することの大切さに気がつき、それから時々「外してはいけない一射」を意識するようになりました。すると大会でも少しずつ自分の一射一射に集中出来るようになっていきました。

そんな練習の甲斐あって、今年度は団体としては関東大会ベスト16、個人としては部の念願である全国大会出場を果たすことが出来ました。全国大会は思うような結果が出せず悔いの残るものとなりましたが、私の弓道人生において素晴らしい経験をすることが出来たと思っております。

ですが、この経験も仲間の存在がなければなし得なかったと強く思います。自分の射が行き詰まった時や落ち込んでいた時にはいつも部活の仲間が助けられてきました。是非、後輩達にも仲間を大切にしたいと思っていきます。そして、個人としてだけでなく部活として強い弓道部になることを期待して

いきます。さらなる発展を遂げる土浦一高弓道部を、今後ともご指導、ご声援の程よろしくお願い致します。

#### 定時制の活動

教頭 鮎川 好夫(高34回)

今年度は35名の生徒たちが新たに定時制に入学しました。現在の定時制では、社会人として働いている人はほとんど見かけなくなりました。それでも半数以上の生徒たちが昼間はバイトに励み、夜はその疲れもあまり見せずに授業に参加しています。昼間働くことによって、経済面で家庭を助けるだけでなく、礼儀やコミュニケーション力、基本的な生活習慣やタイムマネジメント力を身に付けていってくださるのではないかと信じています。また学校では、いろいろな行事や部活動等を通し、幅広いものの見方や考え方を涵養し、一人ひとりの生徒がそれぞれ人間力を伸ばしながら、社会へ巣立って行く準備をしております。そうした校内での活動の一部をご紹介します。

##### ◆校外学習◆

5月2日、ゴールデンウィークの一日を使って校外学習が行われました。今年度は横浜へとバスで向かい、横浜赤レンガ倉庫を起点として、グループごとに事前調査をしていた中華街、元町、よこはまコスモワールド、アニメイト横浜など、思い思いの場所で、ハマっ子気分を満喫したようです。

##### ◆定通体育大会◆

6月に定時制通信制体育大会の県大会があり、本校からはバドミントン、ソフトテニス、卓球、バスケ、トボール、陸上に各選手がエントリーしました。日ごろの練習



習の成果を出すべく、選手たちは全力を尽くしていました。その結果、ソフトテニスのチャサアトアイコさん・玉野知美さんペアと、走り幅跳びの鈴木颯太くんが、8月の全国大会へと出場することができました。ソフトテニスの全国大会は千葉県の白子町を会場として行われ、一方、陸上(走り幅跳び)は東京の駒沢競技場を舞台に行われました。猛暑の中、各県の代表選手たちと競い合い、それぞれ健闘して、来年へと繋がる経験にしてくれたと思います。

##### ◆社会人講話「道徳講話」◆

前期、社会人講話「道徳講話」を2度実施しました。1回目は、生徒たちにとって大先輩となる、

進路状況報告

東大・京大・一橋大 31名

国立大医学部医学科11名

東大15名・筑波大38名・

東北大16名

進路指導部長 横倉 敏治

国立大では近年、難関大を中心



土浦の尾張屋社長櫻井光孝さんで、「意志あれば道あり」という演題で、櫻井さんの人生観を温かい口調で語ってくれました。2回目にお話しいただいたのは、本校副校長明賀靖子先生です。自ら双子のお子様を極小未熟児で出産された経験から、人の命を救う活動をしたかと思いきや、赤十字などに参加し海外で活動した様子をお話しいただきました。11月には、NPO法人キドックス代表上山琴美さんをお招きする予定です。定時制ではこれからも、生徒たちが、自己肯定感を高め、社会との繋がりを意識していきけるような教育活動を積極的に展開していきたいと思っております。

に後期日程を廃止・縮小する動きがみられ、AO・推薦入試の枠が拡大されている。大きな流れとしては文高理低が継続している。医学部医学科の志願者数は4年連続で減少しており、同系統への人気は落ち着いてきた。また、難関大への志願者数が増加しており、受験生が果敢に挑戦した様子が窺える。

私立大では、併願時の受検料割引制度の拡大が、志願者数増加の大きな要因となっている。入学定員の厳格化に伴い、合格者の絞り込みが継続している。そのため、厳しい入試になるのではないかとという不安から、併願校数を増やしている受験生が多い。また、難易度の上昇も顕著である。

本校の合格状況については下の表のようになっていいる。難関国立大である北大、東北大、東大、一橋大、名大、京大、阪大の合格者数は70名であった。その他合格者数の多い大学は、筑波大38名、茨城大20名、千葉大17名、横浜国立大11名などとなっている。また、国立大医学部医学科の合格者数は、筑波大3名、東京医科歯科大1名、名大1名など11名であった。国立大以外では、自治医科大や防衛医科大学校に合格者がいた。

本校生の受験する大学は、難関大と言われる大学が多くを占め、目標を高く設定し、最後まで諦めない姿勢が窺える。しかしながら本校を取りまく環境変化が急激に進んでおり、今後より一層の学習指導・進路指導の充実を図っていかねばならない。

平成30年度入試合格状況

国立大学

Table with 4 columns: 大学名, 新卒, 既卒, 計. Lists various national universities and their admission statistics.

私立大学

Table with 4 columns: 大学名, 新卒, 既卒, 計. Lists various private universities and their admission statistics.

国公立大学医学部医学科

Table with 4 columns: 大学名, 新卒, 既卒, 計. Lists medical departments of national/public universities.

大学校

Table with 4 columns: 大学校名, 新卒, 既卒, 計. Lists university schools and their admission statistics.

Summary table for total合格者総数 (Total合格者総数) with columns: 新卒, 既卒, 計.

平成29年度 進修同窓会決算書

収入総額 10,976,431円
支出総額 8,664,156円
差引残額 2,312,275円(平成30年度へ繰越)

平成30年度 進修同窓会予算書

収入総額 11,123,000円
支出総額 11,123,000円
差引残額 0円

【収入】

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 決算額, 比較増減(△), 備考. Rows include 繰越金, 終身会費, 年会費, 入会金, 繰入金, 寄付金, 雑収入, 合計.

【収入】

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 前年度予算額, 比較増減(△), 備考. Rows include 繰越金, 終身会費, 年会費, 入会金, 繰入金, 雑収入, 合計.

【支出】

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 決算額, 残額(△), 備考. Rows include 総会補助, 会報発行費, 通信費, 卒業記念品費, 卒業周年記念品費, 会議費, 支部連絡費, 生徒奨励費, 生徒活動補助費, 別途積立金, 慶弔費, 事務局費, 旧本館活用事業費, 海外研修旅費, 予備費, 合計.

【支出】

Table with 5 columns: 項目, 予算額, 前年度予算額, 比較増減(△), 備考. Rows include 総会補助, 会報発行費, 通信費, 卒業記念品費, 卒業周年記念品費, 会議費, 支部連絡費, 生徒奨励費, 生徒活動補助費, 別途積立金, 慶弔費, 事務局費, 旧本館活用事業費, 海外研修旅費, 予備費, 合計.

上記のとおり決算しました。

平成30年3月31日
茨城県立土浦第一高等学校進修同窓会会長 轄谷 浩史
監査の結果上記のとおり相違ないことを認めます。

上記のとおり提案いたします。

平成30年4月15日
茨城県立土浦第一高等学校進修同窓会会長 轄谷 浩史

監事 熊木士郎 @
監事 松井泰寿 @
監事 杉山博 @

\*項目間の流用を認める。

平成30年3月31日

編集後記
問もなく、平成としては最後の年の瀬となる。それは、天皇陛下が来年4月末に退位され、皇太子殿下が5月1日に新たに即位されること、時代が終わること、寂しくもあり、新しい時代を迎えるという期待感もあふれる中、最後の編集作業をしている▼明治大正、昭和、平成と幾層の風雪に耐え、旧制土浦中、そして土浦一高生として多くの卒業生が学んだ、思い深い校舎である旧本館が、この度、2年有余の改修工事を経て、創建当時の姿に甦った。この改修は、創立120周年記念事業の一環として行われ、金も、国、県の予算及び、同窓生からの寄付金をもとに、耐震補強の他、外壁の色がベージュ系に、屋根材が天然スレートに復元され、更に、正面、左右のアカサス意匠が取り付けられ、この10月からは一般に公開されている▼今号の編集に当たっては、生徒たちの活動や学校の様子など、例年と生じたことに、120周年募金寄付者一覧を加えさせていただいた。この場をお借りして、多くの皆様のご厚意に深く感謝を申し上げます。
(武)

30年度寄附金がありました
高校10回(60周年学年)卒一同 394,742円
応援指導部OB会 29,100円
高校55回(15周年学年)卒一同 252,343円
会費納入のご協力とお願い
平成29年度会費については、2,385

平成31年度 進修同窓会定期総会のご案内
次年度進修同窓会・卒業周年記念祝賀式は、次の通り開催いたします。
一、期日 平成31年4月14日(日)午後1時
二、場所 土浦第一高等学校体育館
卒業周年記念祝賀式
卒業60周年 高11回、定9回
卒業50周年 高21回、定19回
卒業40周年 高31回、理8回、定29回
卒業25周年 高46回、理23回、定44回
卒業15周年 高56回、理33回、定54回
一般会員・周年記念該当会員の数多くの方が母校の門をくぐられることを期待しております。

Table with 2 columns: 委員, 委員長. Lists names and titles of committee members.